

義務教育教科書無償への闘い

1961 (昭和 36) 年

高知市長浜の教科書無償闘争

土佐湾に臨む漁業の部落 長浜

失業対策事業で働く親たち



当時 一日働く賃金	約	300 円
教科書代 小学校	約	700 円
中学校	約	1,200 円

教科書代は親たちにとって大きい負担
権利意識に目覚めた母親たち

学習会で憲法を学ぶ

日本国憲法第 26 条 2 項

すべて国民は、法律の定めるところにより、
その保護する子女に普通教育を受けさせる
義務を負う。義務教育は、これを無償とする。

母親たち・教師

地域の民主団体
部落外の人々

働きかけ

教科書が買えない 部落差別が原因

教科書をただにする会結成

気づき 行動 連帯



教科書無償措置を生み出す原動力

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律

1963 (昭和 38) 年制定

義務教育を受けるすべての子どもたちの教科書無償化
長期欠席者や不就学者を無くする為、
同和教育専任教員の制度

差別からの解放を目指す運動

子どもの教育を受ける権利の保障

就職差別との闘い

身元調査をする企業の差別体質

他県の人権意識調査結果 (2008 年)

企業が行う採用選考時の身元調査をどう思うか？

身元調査を容認した割合 65.2%

当然と思う 43.0%

自分だけ反対しても仕方ない 22.2%

就職面接による不適切な質問事例 (2008 年)

県教委に報告のあった高校 30 校 202 件

事例 父親は死別か生別か
生まれた所は今の住所と同じか
お父さん・お母さんの出身地はどこか
家族の職業は
結婚・出産しても働き続けられるか等

企業防衛のための身元調査

採用選考に当たって履歴の確認は当然
という企業の意識

我が国の憲法 職業選択の自由を保障

適性と能力に応じて、希望する職業に就く機会が与えられる

就職差別は重大な人権侵害

差別につながる 14 項目

質問等の事例

戸籍謄本提出・社用紙の使用・身元調査・家族
の職業家柄・家族の地位職業収入・家族の資産・
住居状況・宗教・支持政党・生活信条・尊敬す
る人・思想・生まれた場所・生活環境に関わる
テーマ作文 (生いたち・家族・父母等)

差別につながる質問

学校・ハローワーク
(職安) に報告
企業に抗議

本人の責任でない事柄

不合理に気づき
答えない

理不尽な差別を撤廃

1973 (昭和 48) 年
全国統一応募用紙制定

適性と能力に基づく公正な採用選考

人権教育シリーズ No.17

しあわせ

差別解放への闘い

「いのちと生活を守る」
～排除・忌避・生活苦から～



伊予中学校 1 年 岡崎 亜美

2010 (平成 22) 年 1 月 発行

伊予市教育委員会
愛媛県人権教育協議会伊予市支部

人間の尊厳を守り抜く闘い

べつ だん お ふれ が き 別段御触書

江戸時代後半、財政が苦しくなった岡山藩は、藩内に御触書を出し、厳しい俵約を命じた。「着物は無地の渋染・藍染に限る。紋付きのものは着てはいけない。雨の日、栗下駄は認めるが、顔見知りには会ったら下駄をぬいでお辞儀をせよ。絹類の着物は一切着てはいけない。」等



し ぶ そめ いっ き 渋 染 一 揆 (江戸時代末期 1856 年)

53 か村の代表が集まり、相談をして嘆願書を作成。同じように年貢を納めているのに、あまりにもひどい差別だと、千数百人もの人たちが、藩の役所に押しかけて強訴(ごうそ)し、このひどい命令を止めさせることに成功した。その後、藩の取り調べにより 12 名が牢に入れられ、うち 6 名が獄死した。

「別段御触書」を拒否

人間としての誇りに裏付けされた人権意識の高まり

差別に気づき 差別を怒る 行動する仲間を増やす

5 回の
寄り合いで
嘆願書作り

白装束姿
非武装で強訴

渋染一揆嘆願書 私どもは、一般の百姓と同じように田畑を耕して、年貢もきちんと納めていますのに、衣服まで差別されては、農業に励む気持ちさえ無くしてしまいます。百姓たちが捨ててしまった荒地地までも耕し、女どももぞうり作りなど内職に励み、少しでも年貢を多く納めるよう努めてきました。紋付きの着物はいけないと言われますが、私どもは新しい着物ではなく、安い古着を買って使っているから紋が付いているのです。どうして厳しい俵約令を出されたのでしょうか。本当になぜかわしく思います。(一部要約・現代語訳)



一揆に立ち上がる
御触書撤回
農民たちの叫び

命をかけた
強訴(ごうそ)の前夜
家族との別れ



人間としての誇りと尊厳を守る

宣言だけの解放令

1871 (明治 4) 年 太政官布告 (だじょうかんふこく)

身分制度廃止

賤民(せんみん) 身分の称号を廃止
職業・住居移転・結婚等の自由、平民同様の身分に
被差別部落の人々は、差別が無くなると大喜び

政府の無策

解放令反対一揆

解放令に不満をもち反発した差別する側の民衆

根強い民衆の差別意識

襲 撃

被差別部落の人々

依然として残された厳しい差別

壬申戸籍(じんしんこせき)に新平民と記載
戸籍の閲覧・結婚や就職時の身元調査に悪用

明治政府

生活保障あり
士族・華族

生活保障なし
平民・新平民

不 満

被差別部落の人々の暮らし

(零細な小作農家)

地租改正(納税)による圧迫
死牛馬処理の特権廃止
大資本家に皮革の仕事奪われる
兵役・教育等の重い負担に苦しむ

明治政府の解放令のねらい 近代化政策

農民を差別と貧困から解放するための政策に結びつかない

西洋の国々に追いつけ・追い越せを目指す
富国強兵・殖産興業(しょくさんこうぎょう)
税金の取立

残された経済的貧困と厳しい差別意識

差別解放運動へのきっかけとなった解放令

人間としての誇りをかけた闘い

全国水平社の創立

1922 (大正 11) 年 3 月 3 日



西光寺

宣言文起草者
西光万吉の生家



水平社創立記念碑
岡崎公会堂跡

決起した部落の大衆

永い間の差別と屈辱の鉄鎖(てっさ)を解き放とう
自らの力と団結によって

自由と平等を求める火は燃え上がり水平社は生まれた

人の世に熱あれ 人間に光あれ

日本初の人権宣言 水平社宣言文 (現代語訳)

全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ。長い間差別され、しいたげられてきた仲間たちよ。明治 4 年の身分解放令以来、様々な部落解放を目指す運動が行われてきた。しかし、差別解消への私たちの願いに応える何らの展望も結果も得られなかった。同情と憐れみの心で、あたかも私たちを侮辱したような運動が、かえって仲間を惨めな思いにさせ、強く生きていく力をも奪ってきた。今こうして私たちは、祖先の生きてきた道に誇りを持って、人間の生命の尊さを強く訴え、部落解放運動を起こそうとしている。

私たちの先輩たちは、自由で平等な社会を願ってきた。私たちは、身勝手な政治によって作られた身分制度の犠牲者であり、いつの世も差別をされてきた。人の嫌がる仕事をさせられ、その仕事が社会にとって大切なものであるにも関わらず、その仕事を理由として差別され続けてきた。

死牛馬の皮をはぐ仕事をして得たものは、けがれた仕事をするけがれた人間として差別され、生きながら人間の心を引き裂かれるような厳しい差別であったのだ。

あざ笑うような唾まで吐きかけられ、辛い暗闇の中で悪夢を見ているような時代にも、先輩たちは人間解放を信じ、誇りある人間として生きてきたのだ。差別の犠牲者である私たち自身を、そして自由と平等を求めて人間解放を求めて闘ってきた私たちの生き様を誇れる時がきたのだ。私たち自身が創ろうとする人の世が、限りない熱と光と希望に満ちあふれたものであることを願ってここに宣言する。

き そうしや
宣言文の起草者 西光万吉

さいこうまんきち

てんさくしや
添削者

ひらの しょうけん
平野小剣